

学位論文審査の結果の要旨

栞原 良樹

本研究は、農山村地域の抱える諸問題の解決のために派遣された地域サポート人材の任期終了後における定住の促進・阻害要因を明らかにしたものである。研究対象として、主に地域おこし協力隊事業（総務省）を取り上げている。まず、協力隊員の活動内容についての全国的動向を分析し、その特性を捉えた。そのうえで、新潟県十日町市と島根県美郷町を事例として、定住状況（地区内定住、地区外定住、非定住）に着目しながら「協力隊員の活動プロセス（展開・継続）とインフォーマルな関係との関係性の解明」、「協力隊員の生活実態（住宅、就業先、家計状況など）の解明」、及び「協力隊員と地域住民との間に存在する“壁”（意識、空間、時間）の検証」を行った。そして、これらの成果を統合化して、地域サポート人材の定住の促進と阻害の要因を解明した。さらには、本研究で得られた知見を用いて、協力隊員の地区内定住のプロセスのモデル化、及び定住促進に向けた事業運用の提案を行っており、地域サポート人材の定住促進に関する研究の発展に大きく寄与するものである。本研究は、主に社会学や文化人類学で用いられてきた社会ネットワーク分析を農村計画学の研究課題に対して活用し、その有用性を実証している点でも評価できる。

なお、内容との整合性を検討して下記のとおりタイトルを変更した。

変更前

農山村地域における外部人材の定住促進に関する計画論的研究

変更後

地域サポート人材事業における定住促進・阻害の要因に関する研究

以上のように、本論文は多くの新しい知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は、全員一致して、本論文が博士（農学）の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。

最終試験の結果の要旨

棄 原 良 樹

最終試験は、平成29年1月20日に東京農工大学農学部にて、学位論文の公開発表に引き続き、論文審査委員により行われた。最終試験では学位論文の専門領域に関する質疑応答がなされた。その結果、本審査委員会は棄原良樹君が自立して研究を進めることができる学力と見識を有しており、博士(農学)の学位を授与するに足る資格があると認め、最終試験を合格と判定した。